

中小企業景況調査結果

【平成 23 年 10 月～12 月】

富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の 5 産業、207 事業所(回収率 58%)を対象に、
「平成 23 年 10 月～12 月」までの 3 ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

DI (景気動向指数) とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…23 年 7 月～9 月 今期…23 年 10 月～12 月 来期…24 年 1 月～3 月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で表し、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

主要DI	前期		今期 (前年同期)		来期予測
業況	▲38.1	→	▲39.8 (▲29.9)	→	▲37.3
売上	▲27.0	↗	▲15.9 (▲5.9)	↘	▲23.5
採算	▲41.6	→	▲39.5 (▲28.5)	↗	▲33.3

主要 DI は前回調査に比べ、売上 DI のみが回復傾向を示した。しかし、採算 DI の伸びが頭打ちになった上、企業個別の景況感を表す業況 DI は弱含みの横ばいで推移した。電力供給が安定し、一部には災害(東日本大震災及びタイ水害)の復興需要もあり、製造業の一部では多忙であったが、高水準の円高、欧州の金融不安など、グローバル化した経営環境にあっては厳しさを増している。

また、市内では大手製紙工場の停機、岳南鉄道の存続、富士駅周辺の沈滞などの懸念材料が指摘され、ポスト「紙のまち」をにらみ、新産業の育成・誘致を行政に期待する声もあった。

来期、主要 DI は採算 DI を除き、弱含みで推移すると予想している。

経営上の問題点では、

製造業では「商品、原材料仕入れ価格の上昇」に続き「設備老朽化」が問題点の上位になっている。一方、小売業では「売上減に伴う利益減」を 4 期連続 1 位で回答している。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 建設業、サービス業は上昇。製造業、小売業は下降。卸売業は横ばい。

来期、卸売業、小売業は上昇を予想。サービス業は下降を予想。製造業、建設業は横ばいを予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲17.1	↘	▲32.4 (▲8.8)	→	▲28.5
建設業	▲47.3	↗	▲29.1 (▲31.6)	→	▲33.4
卸売業	▲42.1	→	▲47.0 (▲47.4)	↗	▲33.4
小売業	▲55.6	↘	▲77.8 (▲33.3)	↗	▲41.2
サービス業	▲38.5	↗	▲28.0 (▲41.7)	↘	▲51.9
全産業	▲38.1	→	▲39.8 (▲29.9)	→	▲37.3

〔売上高のDI〕 建設業、サービス業は上昇。小売業は下降。製造業、卸売業は横ばい。

来期、小売業は上昇を予想。建設業、卸売業、サービス業は下降を予想。製造業は横ばいを予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲14.3	→	▲11.7 (2.9)	→	▲14.3
建設業	▲31.5	↗	0.0 (0.0)	↘	▲29.1
卸売業	▲15.7	→	▲11.8 (▲36.9)	↘	▲29.5
小売業	▲44.5	↘	▲55.5 (4.8)	↗	0.0
サービス業	▲30.8	↗	▲11.5 (▲8.0)	↘	▲40.7
全産業	▲27.0	↗	▲15.9 (▲5.9)	↘	▲23.5

〔採算のDI〕 建設業、卸売業、サービス業は上昇。製造業、小売業は下降。

来期、卸売業、小売業は上昇を予想。サービス業は下降を予想。製造業、建設業は横ばいを予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲17.2	↘	▲35.3 (▲9.1)	→	▲31.4
建設業	▲52.6	↗	▲41.6 (▲47.4)	→	▲41.6
卸売業	▲50.0	↗	▲41.2 (▲42.1)	↗	▲29.4
小売業	▲55.6	↘	▲66.7 (▲33.4)	↗	▲29.4
サービス業	▲46.1	↗	▲23.1 (▲25.0)	↘	▲33.3
全産業	▲41.6	→	▲39.5 (▲28.5)	↗	▲33.3

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

〔製造業〕 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙』…消費の低迷が下げ止まらず、受注の不透明感が一層増している中、地場産業の空洞化を懸念する向きがあり、家庭紙は在庫増および価格競争激化の状況にある。「年末商戦を迎え、数量的にある程度の期待はするものの、価格面では非常に厳しい状況にある。年末年始の長期休転に伴う在庫調整と価格の早期回復に期待をかける。」とのコメント。

『紙加工』…受注高は昨年と変わらず推移している。スポット物が多く、定例的な受注は減少している模様。「日本製紙停機に向けての影響は見られないが、近いうちに出ると思われる。直接取引がない先でも、仕事量が極端に減少する可能性があり、受注単価への影響は免れない。」との声。コピー紙は「製紙メーカーの縮小により過当競争が更に厳しくなると予想され、円高により輸入紙の増加が著しい。今後、国内市場は輸入紙への置き換えが進み、全て輸入紙となる日もあり得る。」と危惧する声があった。

『機械器具・金属製品』…電力需要の分散化が無くなり、安定した生産環境を取り戻した。自動車部品関連は、「震災復興需要が堅調だったほか、平成22年排出ガス規制の駆け込み需要の反動で平成22年の10月は販売が低調だったが、平成23年10月の普通トラックの販売台数は前年同月比54.1%増と大幅に増えた。震災後の部品不足に伴い、貨物車やダンプ向けの車台販売が10月以降に一部ずれ込んでおり、11月以降も高い水準で販売は続きそう。」「スズキ向け軽自動車用部品が増産されるにあたり、工場拡張を要請されている企業もあると聞く。」との声。

機械(部品)関連は、「工作機械業界では海外向けを中心に引き続き仕事量は多い状況にあるが、円高および欧州メーカーとの価格競争に対抗するため、利益確保が困難な状況。平成24年3月までは、横ばいの生産計画であるが、4月以降生産拠点の変更等の情報があり、先行き不透明な状況にある。更にコスト競争が激化してくる事が予想される。」「震災復興需要やタイ水害の代替生産により一時的な生産増はあるが、高水準の円高による影響が強まりそうだ。空洞化が進み、国内生産の減少が心配される。また、欧州の経済不安が影響を及ぼさないか心配である。」との声があった。配電盤は「生産量は増えているが、販売価格の下落に歯止めがかからない。来期前半は仕事量が多いが、景気の先行きが見えない。」とのコメントが寄せられた。

一方、「日本製紙の停機が大きな懸念材料となっており、企業の市外移転の噂も耳に入る。富士市には企業誘致を進めて欲しい。」「製紙業界を中心とする地元(富士・富士宮地区)の受注状況が非常に悪い。製造業で、何か新規の成長産業を育成して欲しい。」と要望が寄せられた。

『インク製造』…「インキ業界においては紙媒体の変化が近年激しい為、明るい話題はない。多角化や営業力の強化を図れば、将来は明るいだろう。」との声。

『製紐』…円高が続く影響から海外生産がより進み、国内市場の縮小が進むと思われる。その為、生産及び販売も引き続き低迷が続く。

『食品』…「既存顧客であった地元の中小規模店が減少しているため、伸びる余地がない。メーカーにも廃業・倒産が出ている。」「大型店出店は地域活性化という点では歓迎するも、画一的な店舗となり易い。地域色を出しながら既存小売店と共存することが重要な要素だと思う。」とのコメントがあった。

『製茶』…生産農家の減少により荒茶生産量が少なくなるが、販売価格は需要低迷で下がる一方である。今後も放射性物質飛散の風評被害や茶離れの進む中、苦戦が予想されている。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	8.8	50.0	41.2	▲32.4	横ばい
売上高	26.5	35.3	38.2	▲11.7	横ばい
採算	11.8	41.2	47.1	▲35.3	横ばい

〔建設業〕 景気ムード…【厳しい状況】

『総合建設』…景気低迷にて、単価の減少が著しく厳しい現状である。「震災以降、電線地中化工事が激減した。」「快適で安全な社会をつくる為、公共投資・社会インフラの整備が必要であるが、税金のムダ遣いなど建設業が批判の対象となりがちであるのは本意である。」との意見があった。また「地域の食料品店が撤退し、個人商店も無くなった。主婦や高齢者にとって、徒歩での買い物店がなく不便となった。」「新規産業の誘致が必要。」と地域の住環境・産業に関する懸念の声もあった。

『建設関連』…住宅リフォームは「今年前半は震災による材料不足や消費マインドの冷え込みの為、大変であった。6月より少しずつ落ち着きを取り戻し、9月～12月かけて多忙に推移している。来年の見通しは、少しずつ上昇するのではないかと思っている。」との声があった。

空調工事は「産業の空洞化が懸念される中、設備投資が非常に低迷している。富士市への企業誘致、街並みの整備などに行政支援が必要であると思う。」との意見があった。

『土木関連』…「公共工事および企業の設備投資の減少に伴い、全体的に建設工事が減少している。その為、過当競争となり厳しい受注金額となっている。」との声があった。

解体関連は、「各業者は受注減の様で、受注金額も厳しくなり、先行き不安である。」と懸念している。

	好転%	不変%	悪化%	今期DI	来期予測
業況	16.7	37.5	45.8	▲29.1	横ばい
売上高	33.3	33.3	33.3	0.0	下降
採算	4.2	50.0	45.8	▲41.6	横ばい

〔卸売業〕 景気ムード…【厳しい状況】

『機械器具』…機械工具関連は、「ユーザーの設備投資意欲が低く、高額な工作機械が売れない。特に製紙関連の落ち込みが大きい。自動車関連は一部中国向け出荷が忙しいが、設備投資までには至らない。最大の懸念材料は円高である。適正水準まで戻らないと、産業空洞化は避けられない。」との声があった。自動車補修部品関連は、「震災の後、新車生産が8月頃まで滞った為、中古車需要の高まりと共に、整備部品需要が増えたのではないかという仮説があるが、その実感はない。しかし、車歴は毎年高くなっており(10年前は5～6年→現在は6～7年)、その面から補修部品需要が高まっている。なお、全体的には新車の販売はプラスに転じると思われる。」との声があった。

『紙』…「平成24年になると海外からの攻勢が強まり、輸入増加により国内メーカーは苦戦しそうだ。国内メーカーは規模拡大や価格競争にこだわるより、技術・品質向上で独自性を出すべきだ。」との意見が寄せられた。商店向け包装資材は「過剰生産にて品物が余り気味である。フィルムや成型トレイ等の化成品はエコ問題で販売が低迷している。小売店の廃業や売上低迷が続いて、長期的に景気が悪くなると思われる」との声。

『製紙原料』…中国経済の成長鈍化により、中国メーカーの購買意欲も減退気味に推移している。中国向け輸出に陰りが見え始め、一部銘柄で国内価格を下回るようになった。国内メーカーは、製品価格の値上げをほぼ実現し、価格維持の為減産を継続している。「今後、輸出価格の下げにより、国内仕入価格を適正水準に戻す事が出来れば良いが、出来なければ一層苦しい状況となる。」と危惧している。

『再生資源』…金属スクラップ関連は、鉄鋼製品が国内外共に需要減少で明るさがない。「ユーロ安、タイの水害による影響もあり、需要が多かった中国を中心に減少している。製造業の海外進出により鉄スクラップの発生は減少傾向にある一方で、再生資源業者数は減らないため、仕入競争で採算は苦しくなっている。今後も円高が続く限り、当面は厳しい状況が続く。」と苦慮している。

『建材』…「厳しい受注価格の中でいかに利益を確保していくかが課題。今後も厳しい状況が続くそうだが、新規得意先の開拓により、売上高を伸ばしていきたい。」とのコメントがあった。

『食料』…米穀関連は、震災以来、米相場が上昇した。今後の相場展開も不透明な為、大手納入先との価

格交渉が暫定価格ベースという、落ち着いた経営環境となっている。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	5.9	41.2	52.9	▲47.0	上昇
売上高	29.4	29.4	41.2	▲11.8	下降
採算	5.9	47.1	47.1	▲41.2	上昇

〔小売業〕 景気ムード…【厳しい状況】

『衣料品』…呉服店で「業種間の競争が大変厳しくなっている。振袖・七五三需要がレンタルに切り替わる等、他業種の攻勢により、実需期の3ヶ月間を通じて手応えが感じられない。需要が縮小している現状から見ると、今後も明るい材料はないと思う。」とのコメント。洋服店は「富士地区が温暖な事と車社会である事から、コート等の衣料の動きが良くない。今後、1月のセールと3月の人の動く時期に若干の伸びを期待する。」との声があった。

『各種食料品』…米穀は「放射能汚染による風評被害もあり、玄米価格の高騰・買占め・産地指定など複雑な状態となっており、今年度は非常に厳しい環境である。雑穀も東北産が多いため、西日本産中心の配合を求められるケースが多い。」と懸念している。

茶は、「生産期には放射性物質飛散の問題が起き、富士茶は基準値以下である事が証明されが、消費者の購買意欲が低く、特に夏場の不需求期と重なり販売が落ち込んだ。暮れに入り、寒さに加え進物と家庭用需要の増加があり販売は好転している。暮れの販売次第では需要が回復するのではと期待する。」「茶相場の悪化に伴い、茶園管理の意欲がなくなる生産者ときちんとした管理をする生産者とは明年度の取引価格に格差が生じると思う。」との感想も寄せられた。

『日用品・雑貨』…OA 機器関連は、「再リースが多くなり、新規の需要が減少している。今後も引き続き官需が期待出来ず、冬の時代が続くそうである。」との声。

金物店では、タイ水害のため一部の商品に入荷見込みのない物がある模様。

『家電』…太陽光発電、LED シーリングライトなど省エネ商品に期待を寄せる。今後も、エアコン・冷蔵庫・テレビ・照明器具などについては統一省エネラベルを目安に省エネ性能の高い製品に注目していく。また「休日など、つけナポリタンを求めて吉原商店街に若い人が増えてきている。年末セール期間中は普段より来客が多く見られた。」との声もあった。

『自転車』…9月頃からの売上落ち込みが底辺に達した感があり、需要期が始まる3月～4月までの間、健康・環境ブームが定着することを願いつつも、厳しい状態が続くと予想している。また「アピタ富士吉原店の開店で車の通行量が多くなり、活気を感じるようになった。」との感想があった。

『自動車』…「メーカーの生産は順調の様だが、販売・需要が伸びていないと感じる。エコカー減税が平成24年3月末までという事もあり、減税対象車を中心に拡販を進める。今後は車検費用の負担が減り、安全な整備車検を受ける余裕が生まれることから、自動車所得税と重量税の廃止について業界挙げて期待する。また、顧客にとって電気自動車やハイブリット車は割高感があるため、小型・低燃費の車(第3のエコカー)に人気が集まりそうだ。」とのコメントがあった。

『酒』…年末のお歳暮商戦は控えめな取り扱いとなっており、震災以降、景気回復は厳しい状況が続くとみられている。また、地元商店会による年末恒例の歳末大売出し開催について情報が寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	0.0	22.2	77.8	▲77.8	上昇
売上高	5.6	33.3	61.1	▲55.5	上昇
採算	0.0	33.3	66.7	▲66.7	上昇

【サービス業】 景気ムード…【厳しい状況】

『旅館・ホテル』…「今まで抑え気味の宴会需要が復活してきた感じはある。宿泊は予約が間際に入るため、先の見通しがつかみにくいが、需要に大きな変動はないと思われる。」との声があった。

『飲食』…「市内大手企業の停機を含め、市内の活気が衰退している様に思う。そんな中、コーヒー豆が天候不順による品薄の為、輸入価格が高騰している。値上げに踏み切った店もあるようだが、当店は値上げしたくても出来ない状況にあり、苦慮している。景気が回復し、生産工場もフル回転するようになることを願う。」と喫茶店からの声があった。

『清掃機材レンタル』…「現在の景気低迷は自由経済発展の歪みから生じたものと考えられるので、当分この状態が続くものと思っている。また今後、悪化することを想定したほうが妥当だろう。景気低迷は業種や国内経済レベルの問題を上回り、問題解決には相当長期間に亘るのではないかと思う。個々の企業内でできる自衛策をとるべきである。」との意見が寄せられた。

『衣類クリーニング』…「11月まで暑い日が続き、半袖シャツを扱う時もあった。衣替えの時期がずれているようだ。」とのコメントがあった。

『自動車修理』…自動車塗装用の塗料全般及びシンナー類が10月より10%～15%値上げとなった。

『印刷デザイン』…「付加価値のある企画を売りにしていかないと生き残れない。特に印刷業界はかなり厳しい状況である。売上げ増を目指して営業活動を強化していくと共に、バブル期の負債を減らしていく企業努力を進めていく。」との声があった。

『運輸・倉庫』…「震災後、8月頃までは荷動きが低迷していたが少しずつ回復し、年末にかけて持ち直してきた。」との声がある一方で、「富士地区の紙輸送業界では、顧客である大手二大製紙メーカーの生産体制見直し策が平成23年より本格化し、その影響で輸送量は約25%程度減少しつつある。当地区の輸送業者は以前から過剰気味である為、平成24年に向けて過当競争の激化や減車の恐れがある。」と懸念している。

『不動産』…「住居系の需要が落ちているが、商業系・工業系の需要はさらに落ちている。」「来年も低迷しそうである。市場の動向を見ながら事業展開する慎重な動きをとらざるを得ない。」と懸念している。

『高齢者サービス』…「競合する施設が増えたことにより、個別の介護事業所では利用率の減少が傾向として見られる。また、今後の業界の課題として医療と介護が間断なく提供される”地域包括ケア体制”の構築が挙げられている。」とのコメントがあった。

『求人広告』…求人広告の出稿量に増加があるものの、富士市は製紙メーカーの休転による景気後退が懸念され、先行き不透明感がある。

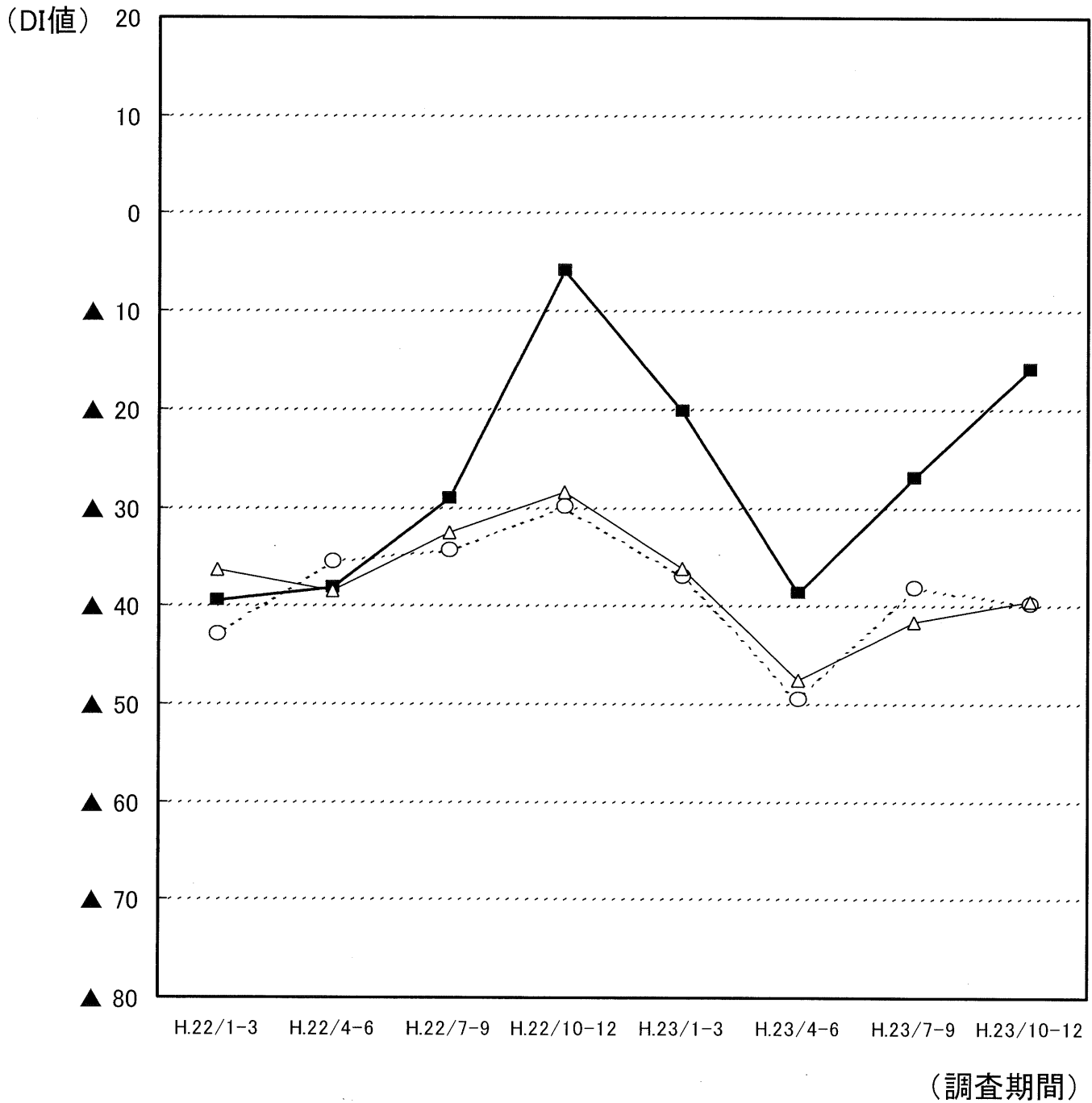
『専門サービス』…社会保険労務士事務所は、「前期は若干ながら手続き関係の事務量が増加したが、今期は特別な手続きがなかったため、特に増加要素は無かった。」「富士本町商店街の停滞や日本製紙の停機が気になり」との声があった。

税理士事務所および司法書士事務所から、「地域経済の先行き不透明感や、消費者の消費動向により、地元中小零細企業の経営は厳しく、結果として我々サービス業に与える影響は大である。基幹産業の発展が無い限り、真っ暗なトンネルの中。」との声があった。

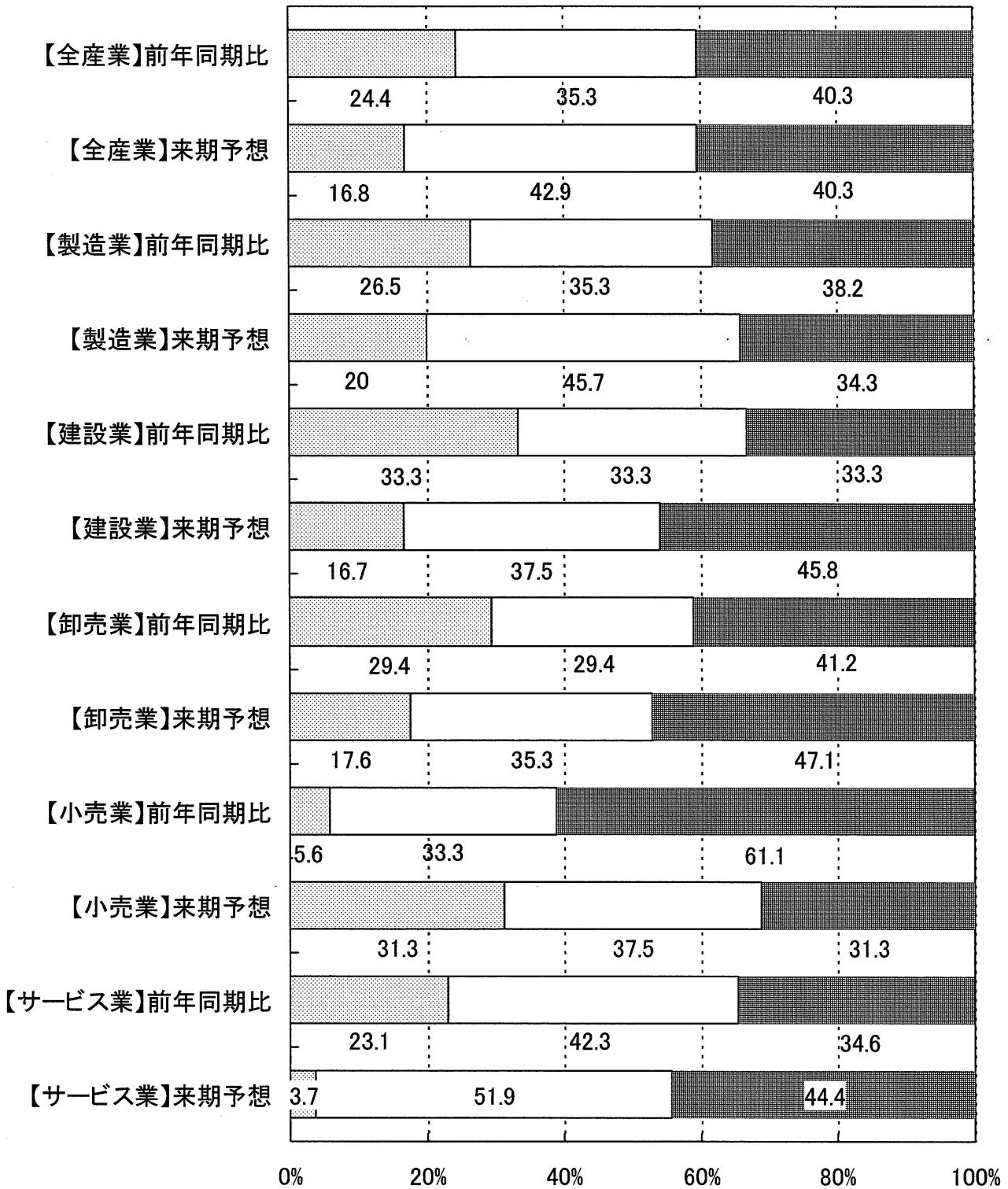
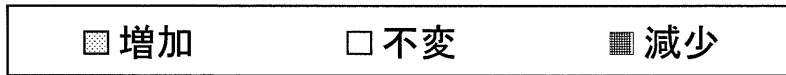
	好転%	不変%	悪化%	今期D1	来期予測
業況	8.0	56.0	36.0	▲28.0	下降
売上高	23.1	42.3	34.6	▲11.5	下降
採算	19.2	38.5	42.3	▲23.1	下降

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

■ 売上 ○ 業況 ▲ 採算



売上高の前年同期比と来期予測



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 設備老朽化</p> <p>3 位 販売価格の低下</p> <p>その他 過当競争／売上減に伴う利益減</p>
建設業	<p>1 位 過当競争</p> <p>2 位 売上減に伴う利益減</p> <p>3 位 その他の需要の低迷／売上、利益減による資金圧迫／人材不足／設備老朽化</p> <p>その他 官公需停滞／販売価格の低下</p>
卸売業	<p>1 位 過当競争</p> <p>2 位 その他の需要の低迷</p> <p>3 位 売上減に伴う利益減</p> <p>その他 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p>
小売業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 その他の需要の低迷</p> <p>3 位 売上、利益減による資金圧迫</p> <p>その他 過当競争</p>
サービス業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 販売価格の低下／設備老朽化</p> <p>3 位 その他の需要の低迷／売上、利益減による資金圧迫</p> <p>その他 過当競争</p>